

安全に関する改善事例

記入日： 2005年 10月 17日

(所属会社)

(氏名)

(連絡先電話番号)

記入者：

ダム名	所在地県名	発注者	型式	ダム諸元		
				堤高(m)	堤頂長(m)	堤体積(千m3)
大保脇ダム	沖縄県	内閣府沖縄総合事務局	R	66.0	445.0	1,861
設計・施工区分	工種	想定される事故の種類	想定される事故の要因	危険作業の種類	設計変更の有無	
施工	フィルダム堤体工	重機事故	人的要因	近接作業	有：(無)	

改善の概要：
 堤体着岸部施工、埋設計器設置等の作業は重機と作業員が近接して作業をおこなう。これまで 重機稼働時は作業員は作業をしない 重機と作業員との作業エリアをカラーコーンで区分する やむを得ない作業(近接作業)を行うときは見張り員を配置する。としていたが、作業に熱中するため、同時作業が何度かみられた。したがって、作業員にセンサー付トラチョッキを付けさせ、重機が近接時ブザーがなり、(重機内でも音がでる)危険をしらせるシステムを採用した。

特許の有無

有：(無)

メリット：
 ・作業時のヒヤリハットが無くなった。
 ・近接作業がみられなくなった。

デメリット：
 ・トラチョッキをつけているから安心と思い、更に危険を増す。
 ・重機設置費(センサー)に約30万、チョッキが1枚2万かかる。

改善前 (略図または写真)

改善後 (略図または写真)

作業員に専用のトラチョッキを着用させた場合、重機周囲に接近したことをセンサーで感知し、重機オペおよび作業員に音で知らせるシステムを採用し、現在施工を進めている。



堤体盛立状況(センサー付トラチョッキ着用)



センサー(バックホウ設置状況)

センサー付トラチョッキ

